

◎ 死別の分かちあいの集い：14時～16時

- ・伴侶：毎月**第一土曜日**（11/2、12月・1月は休み、2/1）
 - ・子ども：毎月**第一日曜日**（11/3、12月・1月は休み、2/2）
 - ・自死：毎月**最終土曜日**（11/30、12/28、1/25、2/22）
- 予約も参加費も不要です。遅刻も早退も構いません。辛い寂しいお気持ちをお吐露してください。超覚寺門徒でなくても参加できるので、お知り合いの方にも是非ご案内ください。

◎ 浄土真宗基礎講座：毎月**最終日曜日** 14時～15時

今後の開催日 ⇒ 11/24、12月は休み、1/26、2/23

親鸞聖人が記された正信偈の講義や読経の練習をしております。雑談も多いお気楽な講座です。初めての方も遠慮せず、どうぞご参加ください。

◇ 寺院護持費（墓地管理費）について

寺院護持費のお支払いは、お墓参りの際に玄関までお越しください。期日も特に設けておりません（何年も滞納されては困りますが…）。今まで郵便振込みをされていたご遠方の方々は、振込口座が下記に変更しておりますのでご注意ください。

【ゆうちょ銀行 15190-55770601】

◇ 報告・連絡・“僧”談

2020年オリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決まりました。早くも経済効果ウマンの話が飛び交っていますが、私の関心事は二つ。まずは福島原発の件。「絶対大丈夫だ」、首相があれだけ国際社会に大見得切ったのだから、復興が目に見えて早くなるのでは……、と期待しています。もう一つは私自身の寿命。6年後、私は53歳なので普通なら生きているはずですから、もちろん観る気満々。でも必ず観ることができるという保証がないのも分かっています。だから、6年後を夢見つつ、一日一日一刻一刻をしっかりと歩き歩んでいこうと思います。

発行人：超覚寺住職 釈隆恩(和田隆彦) (* - -)人 i ~ 合掌

2013年11月報恩講 超覚寺報 第9号

【ハ丁堀だより】

お内仏(お仏壇)に仕舞い込まず、
ご家族みなさんでお読みください。



真宗大谷派(東本願寺)



林鶯凸 超覚寺
憶西院

RIN-0H-ZAN OKU-ZEI-IN CHOH-KAKU-JI
〔since 仏暦2002, 西暦1619, 元和5〕

〒730-0013 広島県広島市中区八丁堀 5-2

Tel : 082-221-1234 ; 090-9999-3113

Mail : otera@kme.biglobe.ne.jp

HP : http://namuamidabutsu.com

超覚寺 秋・冬の法要のお知らせ

慈光のもと、平素は様々にお世話になっておりますこと、
ありがとうございます。

さて、下記の通り法要・法座を勤修いたしますので、
ご参詣くださいますよう、ご案内申し上げます。 <(_ _)>

◎ 報恩講法要 11月10日(日)

10時～ 勤行・法話 (住職)

12時～ 御斎(おとき)

13時～ 市内住職出仕勤行

14時～ 法話

広島市比治山 法正寺住職 泉原寛康 師

◎ 超覚寺門徒 2013年総追弔会兼永代経法要

◎ 超覚寺前住職 3回忌法要

12月29日(日) 13時～13時30分 勤行・法話

今年最後の法要です。阿弥陀様やご先祖様に、この1年間に
無事に過ごせたことを感謝すると共に、その仏徳を讃えます。

法要後は茶話会を開きますので、ご都合の良い方は、お互いの
想いを共有いたしましょう。有縁の方々はどうぞお参りください。

◎ 2014年修正会法要

1月1日(水・祝) 6時～、8時～、10時～、12時～、

住職が約10分ほどの勤行・法話を勤めます。

お墓参りの際にどうぞ本堂までお参りください。

◇ 「いのちに寄り添う会」 自死・自殺予防フォーラム

12月7日(土) 13:30 ～ 15:40 (13:00開場)

講演：自殺対策支援センター ライフリンク代表 清水康之氏
於 広島国際会議場 中会議室 (広島市中区中島町)

平素から自死・自殺対策活動として、自死遺族の集いや自死念慮者の相談、自死者追悼法要に携わっております。全国の自死者数は微減しつつありますが、広島県では毎年約600名が自死され、近年は若年層の自死が目立つようになりました。自死・自殺に対する社会の差別視も根強く、そういう世代・世間への啓発の必要性を感じていました。

そこで有志と共に、【自死・自殺や精神疾患についての正しい知識の普及啓発】を目的とした「いのちに寄り添う会」を設立しました。そして今年も上記予定でフォーラムを開催いたします。今回は自殺対策支援の第一人者である清水康之氏をお招きいたしました。

自死・自殺は他人事と思っても、イジメや就職難、人間関係などの困難に遭うと、誰でも生きたのが嫌になってしまうものです。自死・自殺の実態を知っていただきたく、ご都合の良い方はどうぞご参加ください。

◇ 真宗大谷派(お東) 広島別院 落慶法要

寺町にある広島別院は浄土真宗本願寺派(お西)ですが、実は……、お東の別院も中区宝町にあるのです。タクシーの運転手でもほとんど知らない東別院、これまでは民家調の建物でしたが、来年新しい伽藍が竣工されます。来年2014年10月2日(水)の13時～17時の予定で落慶法要が勤まり、その中で**帰敬式**が御門首御親修のもと執行されます。

正式な法名をいただく帰敬式、京都の東本願寺以外で、それも広島で受式できる機会は当分無いでしょう。今回は70名限定で、しかも広島県内の大谷派寺院台同の法要ですので、定員に達するのも早いでしょう。
受式を希望される方はどうぞご連絡ください。

◇ “寺”後報告

① 9月23日(月・祝) 秋季彼岸会

午後からの開式は今回が初めてでしたが、42名がお参りくださいました。先ず弥陀経(音木有)・正信偈を皆でお勤めし、読経後、私が「型と信心」の話をしました。法要のお焼香が長引いて予定の半分しか話せませんでしたので、次回はキチンと話し切りたいと思います。中入りではおぜんざいを用意していましたが、後の方は少な目になってしまいました。次回は多めに作ります。中入り後は笑福亭仁智師匠の落語噺「川柳は心の憂さの吹きだまり」&「親鸞聖人」でした。やはりライブは面白過ぎますよね。法話でも使えるような小ネタをたくさんメモしました。酷暑の今夏、新規導入のエアコンは大活躍でしたが、席次によっては寒いくらいのところもありました。次回はエアコンの効く場所を予めご案内いたします。

来年以降の
寄席は、秋の
彼岸会で固定
する予定です。



② 彼岸花

昨年植えた彼岸花、酷暑のせいで花の体内時計が狂ってしまうのではな
いか憂慮していましたが、要らぬ心配でした。9月に入ってから次々と茎が伸
びだし、幾つも開花してくれました。まさに彼岸花!! しかし実は植えた半分く
らいしか咲かず、残りはダメだったのかと諦めていました。ところが彼岸を過ぎた
頃から咲かなかった球根から葉が生え出してきました。どうやら開花するほど
養分の蓄えが無かった球根たちなのでしょう。一年後がまた楽しみです。

③ 9月23日(月・祝) 門徒総代会議事録

i 寺院会計について

- ・ 東本願寺納金2013年度分 ￥1,032,300-
- ・ 山陽教務所建設懇志金 ￥1,834,060-
- ・ 広島別院建設懇志金 ￥1,017,100-
- ・ 来年から決算書を作成し、寺報上にて報告する。

ii 超覚寺総門徒合同墓について

- ・ 墓地奥の無縁墓の場所に建立する。
- ・ 高さ約3メートルの和風墓。 ・ 来夏までに竣工する。
- ・ ペット用合同墓も検討する。 ・ 予算は500万円。

④ 古本勸進(ふるほんかんじん)活動報告

檀家さんの不要になった書籍を集めて、専門の業者さんに引き取ってもらい、その買取金額を東日本被災地復興支援のために寄付させていただくプロジェクト。第一回目は全国8カ寺 段ボール178箱7,911冊(内1551冊買取)で合計99,197円を寄附させていただきました。今回ご協力いただきましたき本当にありがとうございました。第2回目に向けて現在準備中ですので、引き続きよろしく願います。

⑤ ゴーヤ

皆さんにゴーヤ狩りをさせていただこうと今年はを多めに植えたのですが、酷暑のせいかなか実りませんでした。暑さが緩んだ9月下旬から急に実りだし、幾人かの方々にはお分けできました。お墓参りの多い【盆〜彼岸】に実りのピークが来るよう、来年は早めにゴーヤ苗を植えるつもりです。

⑥ ホームページ⇒ <http://www.namamidabutsu.com>

ようやく超覚寺のホームページが出来上がりました。超覚寺檀家ではない方々を対象にしているのですが内容はこの寺報とほぼ同じです。仏教関連のリンクも貼ってありますので、一度【超覚寺】で検索してみてください。

☆ 浄土真宗と年賀欠礼について

葬儀を出してから初の年賀状は、「喪中」であることから遠慮するのが世間一般の慣例です。しかし喪に服するという「忌中」や「喪中」の思想は、実は仏教には存在しません。仏教とはお釈迦さまの説かれた「教え」であり、全て生きている人々のためのものです。この「忌中」や「喪中」とは、親族を亡くした悲嘆を癒し日常生活に復帰するための「精神的な準備期間」を意図する反面、日本の古い宗教観から、「親族の死によりケガレたので、他人へケガレを伝染させないために身を慎む」という非仏教的な意図が含まれています。仏教や浄土真宗の教義から推し量れば、故人は【悟りを開かれた阿弥陀如来さまと同等の仏さま】であり、故人を「不浄な者」とする「忌中」や「喪中」のケガレ観念は、道理に合わないことでもあります。そしてこのケガレ観念は、今日の日本社会において、様々な差別に深く関わっています。また「喪中」の表記は年賀欠礼の挨拶文に用いられますが、これは「遺族はケガレているので年始の挨拶には来ないで」とも解釈できます。喪中、他界、永眠、天寿、天命などは耳触りが良く、年賀欠礼の挨拶状に多用されがちですが、前述のように仏教的な用語ではありません。

年賀欠礼の葉書は、上記のような死を忌み嫌う意味合いでなくとも、身内を亡く「新年おめでとうございます」という気持ちになれないため前もってお知らせするものだとも考えられます。しかし、年始に届く年賀状はその人の近況報告でもあるので、受け取る側は楽しみですね。また、浄土真宗の立場から往生浄土は不幸なことではありませんので、欠礼せず「年賀状」や「寒中見舞い」を出してもよいように思います。苦肉の策ではありますが、世間に流されない方策として下記に文案を掲載いたしました。

『 光寿無量 昨年〇月〇日、〇〇は浄土へ往生いたしました。悲しさと寂しさはいまだ癒えませんが、〇〇と△△年間生活を共にしたなかで、お念仏のご縁に遇い生ききる力を恵まれ、本当に有り難く思っておりま
す。新しい年を家族一同、力を合わせて歩んで参ります。今年もよろしく
お導きくださいますよう、お願い申し上げます。』

☆ 御斎（おとき）

古来より日本仏教では、寺院で生活する僧侶の食事のことを【斎（とき）】と読んでいました。本来、不殺生（ふせつしょう）という戒律を守った僧侶の寺院での食事ですから、基本的に精進料理でもちろん禁酒です。【斎】という言葉には「正しい」「慎み」という意味があり、【正しく慎み深い僧侶の食事＝精進料理】を表してきました。僧侶の食事を表す【斎】という言葉が、総じて仏事後の食事を表す言葉となりました。

僧侶も肉食妻帯し戒律をとやかや言わない浄土真宗でも、法要後の食事を【お斎】と呼びます。厳密な精進料理ではなく肉魚の料理も出る場合が多いですが……。超覚寺のお斎は婦人会の手による精進料理です。普段とは違う料理を食することで、改めて【食事＝己のいのちの維持＝他のいのちを食す】を認識いただきたいと思います。普段でも食前食後に合掌して【いのち】に懺悔と感謝の意を表しましょう。

お斎は単なる食事ではなく【仏事】です。酒食をする場というより、法事なら亡き人を偲ぶという場であります。また亡き人が仏事を通して集めてくださった人々との繋がりを深める場でもあるでしょう。ですから、お斎は仏事を勤めた後宴会ではありません。飲食が中心ではなく法談がなされる場であるということを心がけたいものです。

◎ 2014(平成26)年の御法事をご確認ください。

- ・2013(平成25)年： 1周忌 ・2012(平成24)年： 3回忌
- ・2008(平成20)年： 7回忌 ・2002(平成14)年： 13回忌
- ・1998(平成10)年： 17回忌 ・1990(平成2)年： 25回忌
- ・1982(昭和57)年： 33回忌 ・1965(昭和40)年： 50回忌

年初にご命日のある方は、2013年内に繰り上げてお勤めされても大丈夫です。ご自宅でもお寺でも、お参り希望の方はご連絡ください。念のため、境内通路脇に該当者名を掲示してあります。